

問8 会話文読解

(ア) 4 (イ) 1 (ウ) 5

(本文の日本語訳)

テッドはアメリカ人の高校生です。現在、日本の高校で勉強しています。ある日、妹のリリーがテッドを訪れ、二人は、テッドの学校と一緒に向かいます。彼らが学校に行く途中で、テッドは友人のマリにリリーを紹介します。

テッド：ああ、おはよう、マリ。こちらはぼくの妹のリリーです。彼女はぼくに会いにアメリカから来たんだよ。

ぼくたちの高校を見たがっていたから、今朝はぼくと一緒に来たんだ。

マリ：まあ、はじめまして、リリー。

リリー：はじめまして、マリ。私はあなたの学校の制服が気に入ったわ。

マリ：まあ、ありがとう！ 私も気に入っているわ。

テッド：ぼくは、今は制服が好きだけど、最初はあまり好きじゃなかったんだ。

マリ：本当？ なぜ最初は制服が好きではなかったの？

テッド：ネクタイの色が好きじゃなかったんだ。

マリ：赤いネクタイが好きじゃなかったの？ 知らなかったわ。その色はあなたの紺色のジャケットと合っていると思うわよ。

テッド：合っているし、今は好きだよ。最初は、ネクタイの色が明るすぎと思ったんだ。

リリー：じゃあそのジャケットには何色が合うと思ったの？

テッド：そうだなあ… 灰色がいいと思ったよ。

マリ：そうね、灰色のネクタイも合うでしょうね！ 灰色と赤のしま模様はどうかしら？

リリー：その方がもっと合うでしょうね！

テッド：リリー、向こうの学校が見える？ あれがぼくたちの高校だよ。モリ先生が見えるよ。

リリー：モリ先生って誰なの？

テッド：ぼくたちの担任の先生だよ。彼に会いたい？

リリー：もちろん！

モリ先生：おはよう、テッドとマリ！

マリ：おはようございます、モリ先生！ こちらはテッドの妹のリリーです。私たちはちょうど学校の制服について話していたんです。

リリー：はじめまして、モリ先生。制服というのは良い考えだと思います。

テッド：うん、それは良い考えだね。ぼくは服について毎日考える必要がないからね。でも、ぼくはいつも同じものを着ていることにとどき飽きてしまうよ。

マリ：私も同じだわ、テッド。学校に着る服を選ぶことができる日が何日かあったらすてきね。

リリー：そのとおりだわ。でも制服があれば、それほど服を買う必要はないわよね。私たちの学校には制服がないから、服にたくさんのお金を使わなければならないわ。さらに、制服はかっこよく見えるわ！

マリ：それは考えたことがなかったわ！ 幼稚園に行って以来、ずっと制服を着ているから。リリー、良い視点を持っているわね。ちがった考えを聞けてうれしいわ。

モリ先生：異なる考えを聞くのは興味深いですね。私たちの学校は来年からの新しい規則について考えているところです。

テッド：新しい規則ですか。それについて教えてください。

モリ先生：多くの生徒がいつも制服を着てくるのは好きではないと言っていました。教師と保護者たちは何度も会合を持ったんです。そしてついに新しい規則を開始することを決定しました。それは「ノー・ユニフォーム・デイ」と呼ばれます。

マリ：ということは、「ノー・ユニフォーム・デイ」には私たちは制服を着る必要がないということですか。

モリ先生：そのとおりです。その日は服を選ぶことができますよ。

テッド：どのくらいの頻度で「ノー・ユニフォーム・デイ」がありますか。

モリ先生：学校はまだ決めていません。

マリ：わくわくするわね。服を買い始めないといけないわ。

モリ先生：そんなにすぐではないですよ、マリ。勉強するために学校に来ることを覚えておく必要があります。

テッド：今、ぼくは心配しています。去年の春から服のことを考えていません。

モリ先生：何も心配する必要はありません、テッド。常識に従うだけでよいのです。

マリ：テッド、服選びのお手伝いができたらうれしいわ。あら、1時間目の授業が始まるわね。

テッド：そうだね！ じゃあ、リリーを入口まで連れて行くよ。

リリー：ありがとう、テッド。ええと、今日、皆さんの学校に来られてよかったです。皆さん全員とお話して楽しかったです。

マリ：ありがとう、リリー。あなたの視点を聞いて良かったです。

モリ先生：私はあなたたちからいろいろな視点を聞いてうれしいです。